

喝采

The Country Girl

鑑賞日 2017・6・12

制作 1954年 米国 モノクロ 上映時間 104分
監督・脚色 ジョージ・シートン
原作 クリフォード・オデッツ
出演 ビング・クロスビー、グレース・ケリー、ウィリアム・ホールデン
受賞 第27回アカデミー賞 脚色賞ジョージ・シートン、主演女優賞グレース・ケリー受賞

(あらすじ)

ブロードウェイの若い演出家バーニー・ドッド（W・ホールデン）は今度上演する新作の主演者にフランク・エルジン（B・クロスビー）というミュージカル・スターを使いたいと思っていたが、プロデューサーのフィル・クックは反対だった。フランクは酒浸りで演技にも、歌にも昔の面影がないというのである。しかし、バーニーはクックを説き伏せて、フランクのテストをした。結果は良かったが、自信のないフランクは結果を聞かずに去った。バーニーは彼の行き先を探し、フランクの家を訪ねた。フランクは契約内容に不満だったが、妻ジョージ（グレース・ケリー）にすすめられて承諾した。しかし、稽古に入ってもフランクは身が入らず、バーニーに言い訳をする。数年前に交通事故で一人息子を失い、そのショックで妻は酒浸りになり、何度も自殺を試みてフランクを困らせているからだという。この話にバーニーはすっかり騙されてしまい、フランクをダメにしているのはジョージだと彼女を憎むようになる。ボストン公演の幕が開いたが、初演は失敗に終わった。

その原因がジョージにあると決め付けたバーニーは、ジョージをニューヨークに帰そうとする。ジョージが帰ることにショックを受けたフランクは街に出て酒場で泥酔してトラブルを起こし、留置場に入れられてしまう。身柄を引き取りに行ったバーニーはそこでジョージに出会い、話すうち、息子が死んで酒を飲み始めたのは、ジョージではなくフランクであることを知る。フランクの嘘に気付いたバーニーはこれまでの態度をジョージに深く詫げる。

バーニーは献身的なジョージの態度に愛情を感じるようになった……

(解説)

ブロードウェイのヒット戯曲の映画化である。ジョージ・シートンが脚色し、監督したいわゆるバックステージものである。アル中の夫を立ち直らせようと献身的に支える妻に、思いを寄せる若い演出家の三角関係を軸に、ドラマは展開する。監督のジョージ・シートンは二人の間で揺れ動く微妙なジョージの心の変化を捉え、高度な心理劇に仕立てている。この映画でグレース・ケリーは好演し、初のアカデミー主演女優賞を得ている。また、相手役のビング・クロスビーも主演男優賞にノミネートされたが、栄冠は『波止場』のマーロン・ブランドが得ている。